

インターバンクの声（2015年2月23日）

1月後半から2月の第一週目までのドル円は、116円後半から117円前半がドルの下値として意識されていたが、2月6日の米雇用統計の発表後にドルが上昇して以降は、118円台前半がドルの下値として機能しているようだ。もっとも、この期間に何度も118円台前半で円買いの勢いが収めてくれたのは、たまたま118円台の前半になるとギリシャ支援協議合意への期待が高まる情報が入ってきたという綱渡りの状態にあったのも事実だ。次のドル下げ局面でギリシャのユーロ圏離脱のニュースでも入れば、その時の相場は一溜まりもないはずだ。先週末の市場で119円方向にドルが戻ったのも、ユーロ圏財務相会合でギリシャ支援策の4ヵ月延長の合意があったことが大きく影響したはずだ。取り敢えずは足元でのギリシャの財政破綻やユーロ圏離脱のリスクは小さくなったようだが、ギリシャの新政権が選挙の際に公約に掲げたことを考えれば、ユーロ売りや円買いに対する時間的余裕が少し生まれた程度と置いていたほうが良さそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。